

FOMC後のグローバル相場見通し



シニア・ストラテジスト 石黒英之

ポイント① 利上げペース鈍化期待で株は大幅高

FRB（米連邦準備制度理事会）は7月26～27日に開催したFOMC（米連邦公開市場委員会）で、2会合連続の0.75%の利上げを決定しました。今回の利上げで、FF（フェデラル・ファンド）金利上限値は、FOMCが景気を熱しも冷やもしない中立金利とみている2.5%に到達したことから、今後の利上げでインフレ圧力の抑制効果が一段と高まる可能性があります（右上図）。

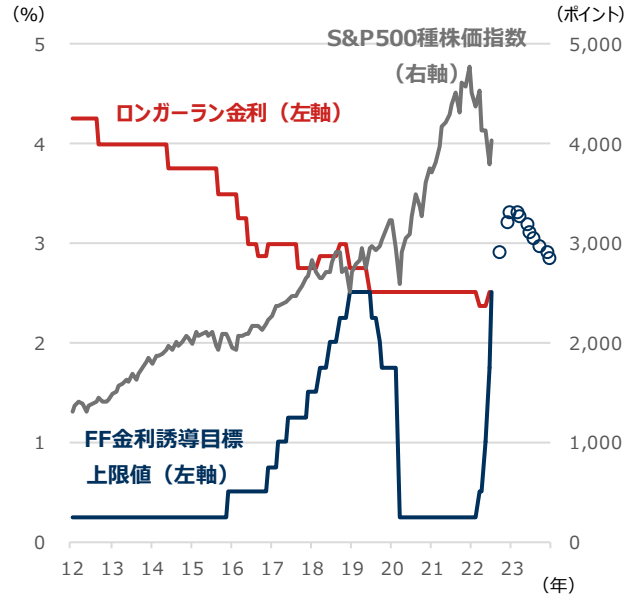
FOMC後の記者会見の冒頭でパウエル議長は「今後、利上げペースを緩めることが適切になる可能性が高い」と述べ、市場ではFRBの金融引き締めの手綱が徐々に緩むとの見方が広がりました。米国市場ではハイテク株中心のNASDAQ100をはじめ、幅広いリスク資産が上昇するなど、今回のFOMCはひとまず投資家心理の改善につながったとみられます。

ポイント② インフレ圧力が和らいでいくかが焦点に

今後はFRBの狙い通りに物価上昇圧力が和らいでいくかが焦点となります。足元で世界の供給網の混乱は落ち着きつつあり、世界的な景気後退への懸念から商品の総合的な動きを示すCRB指数の前年同月比の伸び率も鈍化傾向となっています（右下図）。また、米小売大手のCEOが過剰在庫の対応として値引きに言及するなど、物価上昇圧力は今後和らいでいくと考えられます。

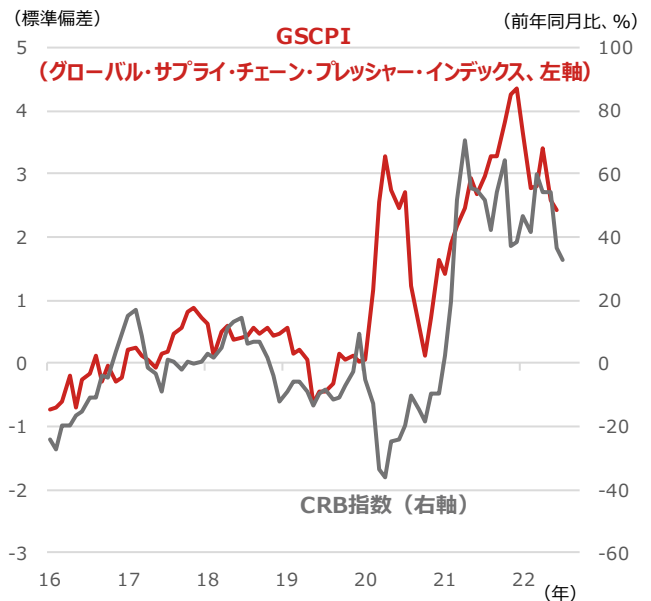
FF金利先物から算出したFF金利の予想値をみると、FRBが年内に利上げを停止し、来年にも利下げに転じると市場は予想しています（右上図）。インフレによる「利上げ加速懸念」から、景気減速とインフレ鈍化による「利上げ停止期待」に投資家の焦点は移りつつあり、市場の潮目は変わってきたといえるかもしれません。

S&P500種株価指数とロンガーラン金利およびFF金利



期間：（S&P500種株価指数とFF金利）2012年1月末～2022年7月27日、月次
（ロンガーラン金利）2012年1月～2022年6月、月次
・FF金利誘導目標上限値の○印は先物市場から算出した2022年9月～2023年12月FOMC（計11回）終了後のFF金利予想値（2022年7月27日時点）
・ロンガーラン金利：FRBが目指す政策金利の長期的な到達地点と捉えられている（中央値）
（出所）Bloombergより野村アセットマネジメント作成

GSCPIとCRB指数



期間：（GSCPI）2016年1月～2022年6月、月次
（CRB指数）2016年1月末～2022年7月27日、月次
・GSCPIはニューヨーク連銀が算出する世界のサプライチェーンのひっ迫度合いを示す指数、0を上回るとひっ迫、0を下回ると緩和されている状態を示す
（出所）Bloombergより野村アセットマネジメント作成

*当資料は、一部個人の見解を含み、会社としての統一見解ではないものもあります。

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆しない保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡します投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認ください。